

弓道ながの

第37号

発行：長野県弓道連盟
会長 土川俊市
〒399-6303
塩尻市奈良井611
TEL0264(34)3063
編集：県弓連広報部
印刷：(株)成進社

巻頭言

会長就任にあたって

長野県弓道連盟会長 土川 俊市



平成二十二年度の事業を終えた事業報告と決算の認定、新しい年度に向かつての事業計画と予算の審議を諮る評議員会で慎重審議の結果原案どおり可決されました。次いで二年間の任期満了にもなう役員改選は、数々の実績を打ち立て見事に長野県弓道連盟を引っ張ってこられた山川茂樹会長は諸般の事情により強く再任できない意向を表明されました。これを受けてその後任に皆様方からのご推挙を頂いて第十代目の会長に選出されました。

与えられたその任務を全うすべく全力を尽くして参ります。会員各位のご指導・ご鞭撻に合わせ絶大なるお力添えを賜り度切にお願い申し上げます。



評議員会に報告された事業は皆様方の積極的な参加や支援を頂いて国体をはじめ競技会等では素晴らしい成績を残すことができてきました。しかし、昇段・昇格は受審者数の割合には、期待した程の成果が得られなかったと思います。

地区が楽しみつつ元気に日々切磋琢磨し精進する環境によって築かれ総力へと結集されるものでありましよう。

東日本大震災に被災されお亡くなりになられた皆さまに心から哀悼の意を捧げます。避難先などで耐乏生活を余儀なくされていらっしゃる皆さま、家屋・家財など被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

長野県弓道連盟会員一同

会長退任にあたって

名誉会長 山川 茂樹



二期四年間の任期を無事務めることができたことに對し「ホッ」としている現

在です。この間会員の皆様に大変お世話様になり、力強く支えてもらったことについて感謝申しあげます。

古澤前会長の急逝により、会長代行から会長に就任するまで、急激な変化の中で軌道に乗るまで少し戸惑いの期間がありました。

会長に就任して間もなく、全弓連が推進している会員管理システムの対応が、大きく遅れていることを事務局より指摘を受けました。その対応に全力を尽くすべく、降旗審査部長を中心に検討委員会を設けて、推進を図ることとして検討に入りました。この間審査部長

の指導のもと、各地区の審査事務担当者の努力もあり、会員管理システムを軌道に乗せることができました。また昨年四月から新しい管理システムに移行したときにも、複雑な移行作業と多量の業務を審査部で担当してもらった。大変な移行作業も確実に処理でき、新管理システムがスムーズに発足できました。

大きく変化した審査事務について、的確に対応された関係者の皆様に改めて感謝しています。

国体に選手権に、先人が長い間かけて、築きあげた「弓道長野」の強い力も、北信越の力の向上により、一時期低迷の期間があり、北信越の壁を乗り越えるのに至難の年が続きました。「若年層の



平成22年5月 全日本弓道大会 範士演武

育成」のため、選手だけでなく候補選手を指定して強化に力を入れてきました。二十一年に女子近距離選手権に降旗選手が優勝、二十二年には国体で成年男子が遠的に優勝しました。「弓道長野」の力も蘇りつつあります。最近は全国舞台で北信越の選手と、戦うことが多くなってきました。切磋琢磨して成長できることは大変喜ばしいことです。

指導者層を考えたとき、教士

の受有者数は、北信越連合会の中で、四十五パーセントの多数を占めています。高齡化が進み、中堅層の指導者の不足を痛感します。今後は指導者の充実のため、若手の七段の育成が課題であります。幸い本年新しく計画した春季講習会は、そうした指導者層の育成を目的にした講習会でありました。その他指導部の計画した各講習会において、指導目標の「縦横十文字の構成・息合・十文字離れの完成・残心(身)美の顕現・的至上主義ではない」を実践することが、指導者の充実にむけて解決を図る道ではないかと思えます。

本年は北信越国体を主管しなければなりません。選手の活躍に期待することは勿論ですが、確実な大会運営で成功することを願っています。

土川会長を中心に新しい体制が発足しました。澁刺とした若さに溢れた役員・部員も整いました。新しい感覚で課題に積極的にチャレンジして、県弓連がますます発展することを祈念して退任の挨拶といたします。

県弓連評議員会報告

―土川俊市市長 新体制が発足―

事務局 丸山 泰利

1月23日、長野県弓道連盟平成23年度評議員会が塩尻市中信会館で開催され、次に掲げる議題について審議が行われ承認されました。内容については「県弓連事業計画書」をご覧ください。

- 一、平成22年度事業実施報告
- 二、平成22年度決算報告
- 三、会計監査報告
- 四、県弓連規約の改訂
- 五、平成22年度2次・23年度事業実施計画(案)
- 六、平成22年度2次・23年度予算(案)

規約改訂では会計年度の改訂が審議され、毎年4月1日に始まり翌年3月31日までとすることが承認されました。これにともない評議員会も、3月に開催されることに変更になりました。

引続き役員改選に移り、次のように新役員が選出されました。全役員の名簿は「県弓連事業計画書」をご覧ください。

- | | |
|-----|----------------|
| 会 長 | 土川俊市 (新任) |
| 副会長 | 外蘭公毅 (指導部担当) |
| 〃 | 平野英孝 (強化部担当) |
| 〃 | 百瀬 正 (審査部担当) |
| 〃 | 重田 功 (競技部担当) |
| 〃 | 高橋康人 (ジュニア部担当) |
| 理事長 | 杉田 博 |
| 監 事 | 山口安彦 (新任) |
| 〃 | 植松 守 (新任) |

次に全国地連会長会議の報告があり、この中で定期中央審査の開催地として平成23年度から新しく「名古屋」を追加新設することになったとの報告がありました。

終わりに、今回退任されました山川茂樹前会長始め役員の先生方には、永い間県弓連のために、ご指導とご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。今後も益々ご健勝でご活躍されることを祈念申し上げます。

新任の挨拶

指導部を背負って・・・

指導部長 宮坂 博之



長野県弓道連盟は、土川俊市会長にて新スタートが切られました。

指導部は、春・秋の講習会に、中央伝達講習会(上級・中級)、女子称号者講習会、女子講習会(五段以下)、教士研修会、錬士研修会、ヤングセミナーと、間に全日本選手権(近的遠的)の強化研修、更に東京特別審査向けの講習会と、年間を通して活動し、それぞれの講習会、あるいは研修会で、それぞれの効果を上げてきたと感じております。

本年度も同じ様に講習会、研修会を開催して参ります。が、更なる講習会の効果を狙い、春の講習会は、春の中央審査に向けての講習会にしたいと考えます。五月の京都審査、あるいは錬士審査へ

と、近々中央審査を受け更なる昇段昇格を目指す人を対象に、「審査」を見据え講習会を開催いたします。これに伴い秋の講習会は、各地域での講習会にと変更し効果を上げるようにして参ります。更なる参加をお願いいたします。

講習会、研修会への参加は、射撃法の習得や体配の修練等、個々の道場では中々できないことを、同じレベルあるいは同じ地域の方々が集まって行います。目標をもつて参加し、射撃法、体配をよく理解し、正しく修得し、新しい一歩が踏み出せることを期待しています。そして自分の向上を図るのはもちろん、それだけでなく県下全般の向上に向けて、それを正しく指導して行かれる様、講習会研修会に臨んで欲しいと思います。更にそれを持って伝え、県全体のレベル向上に努めて頂ければと思います。

指導部は全員が新人です。私も6名は、土川会長を中心にし、外蘭副会長とともに、県弓道連盟を支え、少しでも会員の役に立てますよう、全員で、全力で努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

強化部を担当して

強化部長 新津 一夫



1月23日の評議員会で23年度の役員改選で、山川会長から土川会長へと、県弓

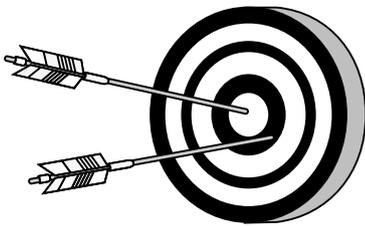
連会長が改選され、それに伴い副会長及び各部の部長の変更もなされた。どこでどう間違ったか解らないが私の所に強化部の話しが来てしまった。

今の長野県の強化部の体制はすばらしく良く、実際に成年の男女はすばらしい成績を上げている。そのような強化体制(国体)を引き継ぐ事が出来るか、私には強化部の経験が無く、不安でいっぱいである。

しかし事業計画は承認され、すでに動き始めており、評議員会の次週から少年男女の予選会が2週連続で計画されており、何もわか

らないまま、沢山の方々にご迷惑をかけながら無事少年の予選会が終了し、いよいよ強化練習がスタートを切れ、各地区2回の練習を3月末までに実施し、弓道ながのが発行される4月には、成年男女、少年男女の2次予選会が計画されている。強化部の経験がない私には理事会で承認された事業計画にそって、今年度の選手の強化に努めたい。今年度は北信越のミニ国体が、長野県で行われ、弓道は飯田県営で予定されている。

何も解らないで動き出してしまっていて、益々県連の会長先生始め多くの先生方にご迷惑をおかけする事と思いますが、県連の会員の皆さんにも暖かく見守っていただき、応援を宜しく願っています。



スクラムを組んで

審査部長 押金 孝



この度、審査部長を仰せつかり、身が引き締まる思いと同時に、自分分を務まる

のか?との不安もあります。大雑把な自分には、前任者の降旗先生の様な気配りは出来ないと思います。審査部担当副会長(百瀬正先生)を始め、審査部員全員と強力なスクラムを組んで、事業にあたり、受審者の皆さんが審査に集中出来る環境づくりをしたいと思えます。

審査会は、当然ながら審査部だけでは、出来ません。

県弓連会長を始め各支部長、運営委員等の方々等大勢のご協力を頂きます様、宜しくお願い致します。

平成二十三年度の審査会は式段以下11回、参四段以下2回の計13

回を予定しています。

審査会は、ステツプアップへの目標として日々研鑽を重ねておられる弓士各位の努力を、厳正に判断して頂ける絶好の機会です。

一人でも多くの方がチャレンジ精神を発揮され、受審して頂きたいと思えます。参四段審査会は、春季秋季に開催します。開催地に関係なく、県内の受審対象者はどちらでも、受審出来ますので、奮って挑戦して下さい。

会員管理システムは、先輩各位のご尽力により、現在新しいシステムが導入され、利便性が向上しております。

ID関連で、各支部長、高体連等関係各位には、今後ともご協力を頂きます様、宜しくお願い致します。

今まで、審査部員をさせて頂いてはいたものの、部長は初めてであり戸惑うばかりですが、日頃お世話になってきた県弓連に少しでも恩返しが出来ればと思えます。

関係各位のご協力を頂き、精一杯職責を全うしたいと思います。宜しくお願い致します。

競技部長に就任して

競技部長 奥山 誠治



平成二十三年度評議員会で競技部長に就任いたしました奥山誠治でございます。今まで

県弓連の審査部長として又長野支部長として弓道に携わって参りました。前競技部長の平野英孝先生の後を受け継いで此の度の就任という事で大変に重い責任を課せられた思いであります。正直務めて行けるかと不安でいっぱいです。前任者の平野英孝現副会長、重田功担当副会長の指導をいただき競技部一同事業計画実施に向けて進めてまいりたいと思っております。四ブロックから選出いただいた九名の部員の方々は、皆さん部長より経験豊富で部長の力不足を十分に補っていただけのもので思っております。競技運営にあたり、部員と共に一生懸命取り組む事は勿論ですが、何よ

りも大会開催の支部長さん始め多くの会員の皆様のご協力なくして運営出来ません。広い長野県の地形から大勢の選手の方々がご参加いただく為に開催地が中心地域となり、一部地域と支部の皆様のご負担も大きくなると思いが、何卒ご協力の程宜しくお願い申し上げます。また支部長さん並びに大会参加予定の選手の皆様にお願い致しますが、県弓連事業計画書に記載されています各大会について特別の場合を除きご案内は致しません。申し込み期限を守っていただき大会十日前厳守で支部長さん経由で申し込み頂きたくご協力をお願い致します。

また競技大会では主催する大会を始め各地で開催する全ての大会が一定のルールのなかで運営出来る様「長野県競技運営要項」が制定されています。昨年各支部長さん等に配布致しました。大会がスムーズに運営するために競技部員の研修会も予定されています。会長、副会長を講師に真剣に取り組んで行きたいと思えます。

競技部では本年六事業の実施を予定しています。一昨年令制限等ある競技もありますが是非ともご

参加いただきます様競技部員一同お待ちしております。今後共宜しくお願い致します。

今年度のジュニア部

ジュニア部長 山田 雅亮



新年度を迎え、新会長の許スタートをきった県弓連ですが、ジュニア部でも、

部員一名の入れ替えを経て、新たにスタートいたしました。昨年は、中学生・高校生とも全国規模の大会において、優勝こそありませんでしたが、何人もの入賞者が出ました。全国中学生大会で中村誠人選手(長野日大中)が七位、全国高校総体で野澤和樹選手(東海大三高)が七位、熊田ゆい選手(下諏訪向陽高)が三位と好成績を残しました。

以上のような成果があった反面、いくつかの課題もありました。中学生大会の長野県予選会への参

加人数が少ないまま横這いを続けております。長野日大中以外は各地区の弓道教室等で育成していただいた上での参加と思われれます。武道あるいは社会体育としての弓道に対する中学生の関心を高めるために、道場掲示用の中学生大会の案内書の作成や早期のHP掲載などを考えております。又、高校生に対しては、的に当てるだけの弓道ではなく、道としての弓道にも心を向けさせていくような環境を整えていくことも必要だと考えております。

平成二十四年全国高校総体につきましては、以前から県連の皆様にはお知らせしておりますが、いよいよ来年に迫ってまいります。期日は八月一日、四日、会場は松本市総合体育館特設射場と決定しております。現在は、準備委員会を中心に予算の調整をしており、本年六月には実行委員会が設置される予定であります。人的な面や金銭的な面、更に、練習会場の面などで皆様に大変お世話になることと思えます。近々具体的なお願いもすることになります。ご援助の程何卒よろしくお願い申し上げます。

走りながら考える

広報部長 杉田 博



前任の征矢先生から広報部長を引き継いで、早速四月五日発行の『弓道ながの』第37号の準備に取り掛かりました。気が

持ちばかりが先走って独りでは何をしたらいいのか全くわからない状態でした。経験者に加え新しくお願いした部員に助けられて何とか動き出したもののホツとして暇はなく、平行して次の号に取り掛からないと間に合いそうにありません。年4回の発行と聞く之余裕がありそうに感じますが、いざ動き出してみると、常に駆け足を追られているような状態です。慣れば少しは余裕が生まれるでしょうか。とにかく汗をかきかき走りながら考えなければ、と思っています。

『弓道ながの』はまもなく創刊から10年を迎えますが、一層充実したものにするために部員一同の努力はもちろんのこと、会員の皆様から貴重な情報をどれだけお寄せいただけるかが最も重要なことだと思っています。

広報部の仕事はこの他にHPの管理や『弓道』誌の「ちれん発」欄に原稿を送る等がありますが、何れも会員の皆様のご協力があったからこそです。

退任の挨拶

『健体・康心』

前副会長 清水 克也



平成二十三年一月の評議員会で県弓連役員を退任することにになりました。歴代会長先生はじめ関係する弓士の方々のお力添

えで今日を迎える事が出来ました。心に心から感謝申し上げます。顧みれば平成五年に監事を仰せつかりその後理事・常任理事(競技部長)を勤めさせて頂いた頂きました。

平成十八年一月には故栗林實先生の逝去のあと副会長を命ぜられ、通算十八年余お世話になりました。この間県弓連規定の改正、競技規則の改訂、ねりんピック全国大会の参加等々、色々の方面でご指導を頂きました。

これからは健康に留意し微力ながら弓道発展に寄与してゆきたいと思っております。健康とは、健体(健やかな体)・康心(やすらかな心)のことだそう。健を健やかに保つよう自己管理し、そしてそれ以上に心を安らかに保持できるよう心掛けてゆきたいと考えております。

どうかよろしくお願いいたします。

退任に当たって

前副会長 宮下 重敬



この度、県弓連副会長を退任いたしました。三期六年間の長きにわたり、何とか務めさせて頂いた頂きました。誠に有り難うございました。

思い起こせば、平成十七年、故古澤博会長の三期目に齋藤節朗副会長の後をお受けいたしました。古澤会長には、未熟な私を激励し、暖かなご指導ご鞭撻をいただきました。退任に当たり改めて感謝申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

後を受けた山川茂樹会長のもと、長野県弓道界躍進のため、及ばずながら微力を尽くすことができました。この間、ご指導・ご協力いただきました役員・評議員・事業部員諸氏、諸先輩、会員の皆様方、重ねて北信地区の皆様方に心より御礼を申し上げます。

「至誠而不動者、未之有也」は孟子の言葉ですが、今後とも「至誠」を心に刻み、「射即人生」日々精進していく所存です。よろしくご厚誼のほどお願いいたします。

Hast La Vista

前競技部長 北嶋 晋



2期4年、振り返ればあっという間でありました。もう一期やるつもりでしたが、それもかなわぬこととなりました。

した。されど、マンネリ化への危惧もあり、高校生の指導が7年間空白であることも考え合わせると潮時でありましょう。以下退任にあたり、井伏鱒二による漢詩翻訳の文言にて意を伝えたいと思います。

この杯を受けてくれ
どうぞなみなみ注がしておくれ
花に嵐のたとえもあるぞ
さよならだけが人生だ
お世話になりました。ありがとうございました。

Hasta La Vista Nunca.

『感謝と御礼』

前総務部長 北村 弥昌



このたび県弓道連盟総務部長(事務局)を退任するにあたり、県下多くの弓士の皆様へ感謝と御礼の言葉を申し上げます。

弓道を始めてより、多くの方々陰に陽に大変ご指導いただきましたので、少しでもご恩返しできればとお引き受けを致しました。県弓道連組織の一員として未熟ではありましたが、いろいろな仕事をさせていただきました。仕事を始めてみますと大変なことでした。今までの先輩の皆様のご苦労がわかりました。この間多くの方々心からなるご支援、ご声援と寛容の気持ちを見せて頂き、何とかこの任務をやり遂げることができました。今更ながら、ありがたいことと深く感謝申しあげます。

これからは自己の研鑽に励み、長野県弓道の発展に微力ながらお手伝いをしてまいりたいと思います。

終わりに長野県弓士の皆様のご発展を祈念するとともに、今後ともどうぞよろしくご指導をお願いしましてお礼の言葉といたします。

IDとの4年間

前審査部長 降旗 昭雄



私が審査担当になったのは、会員管理システム・ワースト1の本県を何とかしなければとの山川会長の白羽の矢が暇でパソコンが少し使える私の所に飛んで来たからです。

このシステムは問題だらけの代物で試行錯誤の連続でした。前任者が手付かずだったのも成程と感じました。2時間近くお互いパソコンを前に電話であれこれ操作したこともありましたが、私は問題に突当たるとどうすれば解決できるかと考え、むしろ楽しんでいたかも知れません。

私にとってIDに明けIDに暮れた4年間でした。

昨年4月からは格段に改良された新システムが導入され、後任者に引き継ぐことができホッとしています。

この4年間でワースト1から脱したかどうか分かりませんが、的枠の縁を叩く音くらいはしたのではと思っています。

ご指導をいただいた山川会長、役員の皆様、支部長さん、そして名簿作成、認許状発行とご尽力いただいた事務局の皆様さんにお礼申し上げます。

そして何よりも、問題多いシステムにゼロから挑戦した審査部員に心から感謝いたします。有難うございました。

ごあいさつ

前広報部長 征矢 憲



ひとことご挨拶申し上げます。このたび長野県弓道連盟の役員任期満了を機に常任理事・広報部長を退任することになりました。

平成十七年二月一日付けで故古澤博元会長からジュニア部担当の副会長の辞令を受け、続いて山川前会長の下で合わせて副会長二期、常任理事一期、六年の間、非力ながら県弓道の運営にかかわって貴重な体験をさせていただきました事、大変有難く存じております。

この間、ご指導いただいた古澤・山川両会長はじめ役員の皆様、副会長時代にお世話になった高体連の先生方、広報部長として編集に携わった『弓道ながの』の原稿集めに奔走していただいた広報部員の皆様、執筆を快く受けていただいた会員の皆様、ご愛読いただいた会員の皆様方には大変お世話になりました。誠に有難うございました。お陰様で大過なく任を終える事ができ、安らかな気持ちで寛いでおります。

終わりに、会員の皆様のご健勝にてご活躍されますよう、また長野県弓道連盟が益々発展されますよう、ご祈念申し上げて退任のご挨拶といたします。

弓道合宿予約随時受付中！

野辺山洗心弓道場

近的道場	18人立 1ヶ所 (床暖房完備)
	12人立 2ヶ所
遠的道場	1ヶ所

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山1003

HP : <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

指導力向上指導者講習会受講報告

教士七段 外園 公毅

標記講習会を平野先生と受講してきた。ここ何年かこの講習会に派遣させていただいているが、中央講習会のあり方について、その位置づけ、方向性、目的など模索している姿を窺えた。

昨年の全弓連通常評議員会では、事業方針として『本連盟においても「弓道愛好家のための中央組織」との従前のあり方から、社会の発展・進化に弓道をいかに役立てる

かを考察し、組織力を高め、求められる要件に適う事業を積極的に推進すべき時期に来ている。』とし、公益法人制度改革に向けての体制整備が述べられ、「弓道の社会貢献・社会的存在」を事業方針のテーマに掲げていた。講習会もその方針に沿って変革しつつあると感じた。今年の講師は役員講師を除けば6人、昨年までの8〜9人と比べると少なく、またこれまでは講師全員

の指導を受けたが、今年は七段担当は石川主任講師を始め飯島・佐竹の各範士、六段は川村・本田・久保田の各範士というように完全に分け、会場も分けて行われた。指導内容も、うまく説明できないが、分かりやすく丁寧で、受講生への接し方が今までとは違うなどという感じを受けた。私だけかもしれないが。

講習会日程の中に、研究協議として「初心者指導方法について」というテーマで中学校武道必修化対策特別委員会の高橋良子委員による講義とグループ実習が2時間あった。詳細は省くが、中学校の武道必修化に対応したものである。一般の弓道教室の初心者にも活用できるものであり、講習会などで機会があれば紹介したい。

「初心者の指導について」の講義とグループ実習

何よりも今回驚いたという緊張したのは、講習会の仕上げが「検定試験」となっており、講師全員による採点制で、終了後全員の結果が公表され、各人に渡されたことである。これまでいろいろ講習会を受講したが初めての体験であった。

今の私の射では高得点など望む



「検定試験」の一手行射（平野先生の“会”）

べくも無いが、これは各人が自分の射のレベル、今の高い評価を受けている射風の傾向を知る上では大変おもしろかったのではないだろうか。そして最高得点の人（六段の受講生でした）が代表して修了証を受け取った。

最後の講評で、鈴木会長、山下副会長から「守る構えだけで攻める構えでない。思い切って攻める気構えが大事」と、将に私への「檄」と受け止めました。



私と弓道

上小支部 錬士六段 堀内 英征

昭和六十二年丸子体協の弓道教室に参加、その年は十回で弓が出る来ると云う事で、農作業が忙しいが何とかなるかと始めた。終わったら続ける人が五人位いた。遣り繰りし、故萩原恒雄錬士六段の指導を受けた。平成二年三月、腹を切り八月三段になった。始めてから五年で五段になったが、後がいけない、錬士に八年かかった。なぜか中らない。引き分けて離してただけだった。どうしたものか考えた。

初心に返って遣り直そうと決めた。

春、伝達、秋、上小支部・東信教錬士会と、四年位続けて講習会に出て、先輩の方々の見取り稽古した。六段を前にして少し中りが出てきた。今想い起こす時、五段・錬士の二次・六段の審査では、中てようと云う気持ちは無く、引き分けて離れて見れば皆中していた。今練習に際して、身体から「力み」を抜き、射法八節と射法訓を心に銘じ、足踏をしつかりやる、弓矢

が落ちない程度の力で、サラッと取懸け、吸う息合で高く打起し息を吐きながら気を丹田に下す、勝手の手首の力を抜く、引き分けは目通りを過ぎたあたりで右肘を更に引き分け、口割にしつかり付ける、緩まぬ様にしながら引手を九分九厘押す、弓手に負けて勝手が自然に離れるまで誠をつくす、離れた矢は真つ直ぐ飛んで行く。この様に凝りを無くし、反復練習を続けて行こうと思っています。二年前から、丸子弓道会の会長として会員の皆さんが、練習した後、気分良く帰れる様、気配りし、活気ある会に盛り立てたいと思います。今年丸は澄心館弓道場移転新築三十周年と木曾義伸拳兵大会が二十五回と云う事で、盛大に行きたい。多勢の参加を心よりお待ちしております。



懐古射院初の快挙

新崎さん 連続二回の継矢

「射院八十年の歴史の中で継矢は記録に残ってはいませんよ。」と小坂支部長さん。一月二十一日(金)午後四時三十分ごろでした。いつもの練習時間を新崎さん、雫田さん、中学生女子の二人が黙々と練習に打ち込んでいました。四射を終りついで、矢取りに行つた新崎さんが、「継矢になってしまいました。」と驚きの声を発したのを聞いて皆が駆けつけ、中学生も「すごい」と感嘆の声をあげました。この立ちで新崎さんの一射目と三射目が的の心近く一黒で見事に繋がりました。まれに見る継矢となつたのです。早速記念の写真の撮影となりました。ところが、新崎さんの継矢は、二十日後の二月九日(水)の練習中に再び発生。午後二時五十分



1 回目の継矢 (1月21日) 両手の差し指を繋ぎ、継矢のサインをしました。外黒五時に



2 回目の継矢 (2月9日) 大阪出身の新崎陸美さんは四年

前から弓を習い始めたばかりですが、本道場随一の練習熱心で、一日百射は優に超える矢数を重ねるなど、弓に没頭する日々を送っています。その精進する姿に弓の神様が、素敵なプレゼントを下さつたのでしょうか。連鎖反応なのでしょうか、最初の継矢の場に居合わせた、雫田さんも翌日二十二日、粹外の四時の位置でしたが、継矢となりました。小諸懐古射院継矢のラッシュです。「二人続けて継矢とは、しかも、新崎さんは連続二回、すごいことだ。」と笹澤会長さんはこう言いながら、繋がった矢を手にとって、「射院の記録に継矢を展示して見ましよう。」と提案されました。

記念すべき矢ではありませんが、二人とも出費かさむと頭を抱えています。小諸懐古射院にお越しの際には道場の壁面に飾られた希有な新崎さんの継矢をご覧下さい。なお新崎さんは継矢直後の審査で見事四段に合格。会員一同から重ねて祝福を受けています。

(栗林 正直)

弓仲間紹介

「浦島太郎です」

諏訪支部 足助 敦

四年ほど前より弓を再開しました。それまでは下諏訪弓道部の初射会と夏の御射山奉射会の参加と年に数回の練習で旧友らと弓を引く程度でした。

そんな時友人に御射山奉射会の矢渡しをやってみないかと誘われ、友人や後輩のすすめに不安だった気持ちも揺れ「一から教えるから」の言葉に後押しされ、やることになってしまいました。張りつめた空気の中での練習は集中出来ましたが、足腰がふらつき体力の衰えを痛感しました。翌朝からゴム弓を持つてウォーキングです。少し歩いて息を整えてゴム弓を数回やり又歩いてを繰り返し、早朝擦れ違う人々には「変なおじさん」に見られていたことでしょうか。効果あってか腹も少しへこんだ様に思え、気力体力充実し、矢渡しを終えることが出来ました。友人や後輩の真剣な指導とそれに応えようと体力作りから始めた自分、今思うとこの矢渡ししが

再出発の原点であったと思います。

その後諏訪支部郡例会、県下弓道大会、県選手権大会と講習会に参加させていただきました。その都度浦島太郎的なカルチャーショックを受けています。月刊弓道二月号、吉本清信先生の「教える方法」「教わる心得」を読ませていただき、自分と同じ様な浦島太郎が居ることを知り大変勇気付けられました。

今年下諏訪弓道部の運営に参加させて頂いておりますので、現在「休弓」している友人らに復帰の際には、後押ししたいと考えております。



大会結果

全国弓道遠大会

○1月8日 全国弓道連盟中央弓道場

▲新成人男子の部

①原田 進(信州大)

▲一般女子の部

④藤村公美(信州大)



第61回三十三間堂大の全国大会

○1月16日

▲成人男子の部 ③原田 進(信州大)

飯島町弓友会第29回百射会

○2月11日 飯島町弓道場

①亀岡英司(南佐久) ②中村健二(飯田市) ③中村 宏(下諏訪町)

④小松徹朗(宮田村) ⑤杉山滋志(駒ヶ根市)

第19回中野冬季百射会

○2月13日 中野市営弓道場

①大島勝己(新潟県魚沼) ②小山謙太郎(須坂) ③林 英彦(中野) ④西

沢 徹(大北) ⑤武田礼子(中野)

お悔やみ申し上げます(敬称略)

五段 安曇支部丸山喜男(82歳)

平成23年2月3日ご逝去

つづい

一月の評議員会で、任期満了にともなう役員改選が行われ、土川新会長が選出されました。各事業部長も総入れ替えとなり、一段と若返って清新な顔ぶれでスタートしました。

勇退された山川前会長は、古澤元会長の死去にともなう会長代行を務めたあと、十九年度から二期四年に涉り、会長に就かれました。

前会長が引き継いだ頃の県弓連は、かつて北信越五県から追いつき追い越せの目標とされてきた座を追われ、低迷期に入っていた感がありました。

前会長の願いは、かつての県弓連の栄光の座を取り戻すことにあつたように思います。「基本に忠実な修練を」と熱く説かれ、指導にも力が入りました。

前会長の方針は次第に浸透し、降旗選手の皇后杯の快挙をはじめ、昨秋の国体の成年男子遠的優勝など、各種大会でのめざましい活躍につながり、本年度は三月の高校選抜の結果次第では優秀地連の入賞も期待できるまでになりました。

新年早々の新成人大会では、信大の前田進選手が優勝するなど、新年度も大いに期待が膨らみます。(松澤英男)

広報部 部員名簿

- 杉田 博(部長) 松澤 英男(南信)
- 加藤 明美(北信) 鷹野 良信(東信)
- 丸山萬佐巳(中信) 手塚信一郎(南信)
- 中田 美千(中信)